



「一人一人の個性が輝く未来を担う人づくり～多面的・多角的な視点から学びをつなげる～」

教育実践フォーラムにおきましては、多数のご参加ありがとうございました。
今回の研究員号では、5人の研究員のつながりについて紹介します。

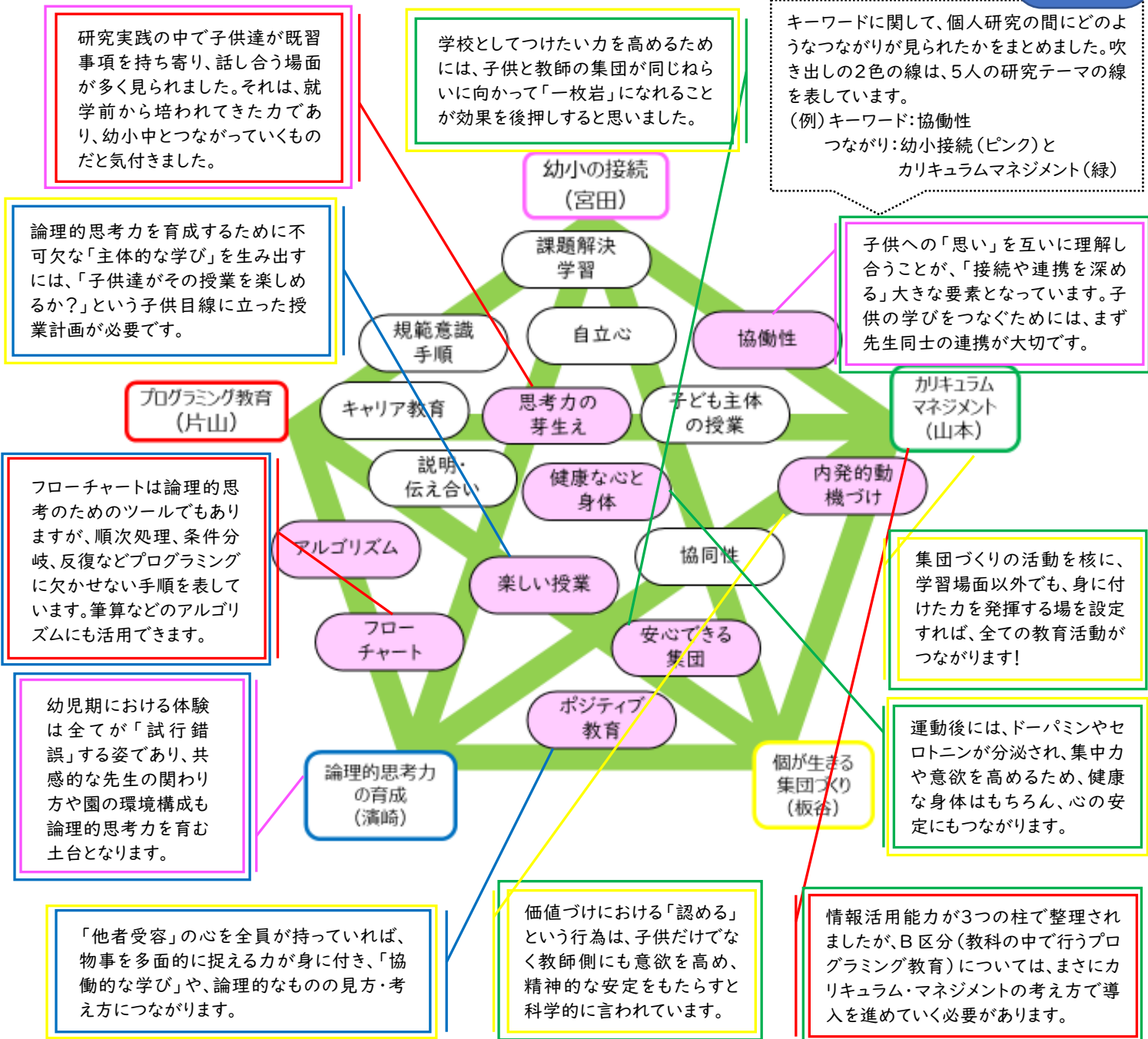


互いの研究にはこんなつながりが！

表の見方

キーワードに関して、個人研究の間にどのようなつながりが見られたかをまとめました。吹き出しの2色の線は、5人の研究テーマの線を表しています。

(例) キーワード：協働性
つながり：幼小接続(ピンク)とカリキュラムマネジメント(緑)



研究実践の中で子供達が既習事項を持ち寄り、話し合う場面が多く見られました。それは、就学前から培われてきた力であり、幼小中とつながっていくものだと感じました。

学校としてつきたい力を高めるためには、子供と教師の集団が同じねらいに向かって「一枚岩」になれることが効果を後押しすると思いました。

論理的思考力を育成するために不可欠な「主体的な学び」を生み出すには、「子供達はその授業を楽しめるか？」という子供目線に立った授業計画が必要です。

子供への「思い」を互いに理解し合うことが、「接続や連携を深める」大きな要素となっています。子供の学びをつなぐためには、まず先生同士の連携が大切です。

フローチャートは論理的思考のためのツールでもありますが、順次処理、条件分岐、反復などプログラミングに欠かせない手順を表しています。筆算などのアルゴリズムにも活用できます。

集団づくりの活動を核に、学習場面以外でも、身に付けた力を発揮する場を設定すれば、全ての教育活動がつながります！

幼児期における体験は全てが「試行錯誤」する姿であり、共感的な先生の関わり方や園の環境構成も論理的思考力を育む土台となります。

運動後には、ドーパミンやセロトニンが分泌され、集中力や意欲を高めるため、健康的な身体はもちろん、心の安定にもつながります。

「他者受容」の心を全員が持っていれば、物事を多面的に捉える力が身に付き、「協働的な学び」や、論理的なものの方・考え方につながります。

価値づけにおける「認める」という行為は、子供だけでなく教師側にも意欲を高め、精神的な安定をもたらすと科学的に言われています。

情報活用能力が3つの柱で整理されましたが、B区分(教科の中で行うプログラミング教育)については、まさにカリキュラム・マネジメントの考え方で導入を進めていく必要があります。

お互いの研究が深くつながりを持っていることを再確認し、個々の研究をさらにいろいろな角度から見ることができました。異なる分野・領域の間に共通性を見出す力を身に付けることが、物事の本質を捉えることにもつながると感じました。

今年度の研究を終えて…

この1年間、授業研究を進めるにあたり多くの学校、先生方にお世話になりました。それぞれが学んだことを今後も嶺南地区の各学校、先生方にお返ししていきたいと思っています。本当にありがとうございました。



【お問い合わせ先】
嶺南教育事務所 研修課(0770-56-1302)